

## 乳酸菌の経口投与によるコラーゲン誘導性関節炎の抑制

○狩野宏、金子勉（明治乳業中研）

### 【目的】

乳酸菌は免疫賦活作用を有することが知られている。しかし、免疫調節の破綻を原因とする自己免疫疾患に対する乳酸菌の投与効果については不明点が多い。そこで本研究では、自己免疫疾患の一種である慢性関節リウマチについて動物実験モデル（コラーゲン誘導性関節炎；CIA）を用いて乳酸菌投与による免疫調節効果を中心に検討した。

### 【方法】

L a o 朐 a c 川雌 d 6 1 b m e 舐 s u b s p . b u l g a r 1 c u 3 の 2 0 3 8 株 または 1 0 7 3 株 培養物の添加飼料、対照として培地成分（脱脂粉乳；SM）の添加飼料または通常飼料（MF）をDBA/1Jマウスにそれぞれ二週間経口投与した。各種飼料投与後、ウシII型コラーゲン（bCII）で免疫することによりCIAを誘導し、その発症を経時的に観察した。また、血中抗-bCII抗体価をBLISA法により測定した。

### 【結果】

2038株または1073株投与群はMF群と比較してCIAの軽減化および発症率の低下が認められた。特に1073株投与群における抑制効果が顕著であった。血中抗-bCII抗体価についてIgG2a、IgG2bは群間で大きな差が認められなかった。しかし、IgG1は1073株投与群、2038株投与群ともにMF投与群と比較して減少傾向が認められた、本研究により2038株または1073株の経口投与はCIAの発症抑制効果を有することが推察された。

・  
・